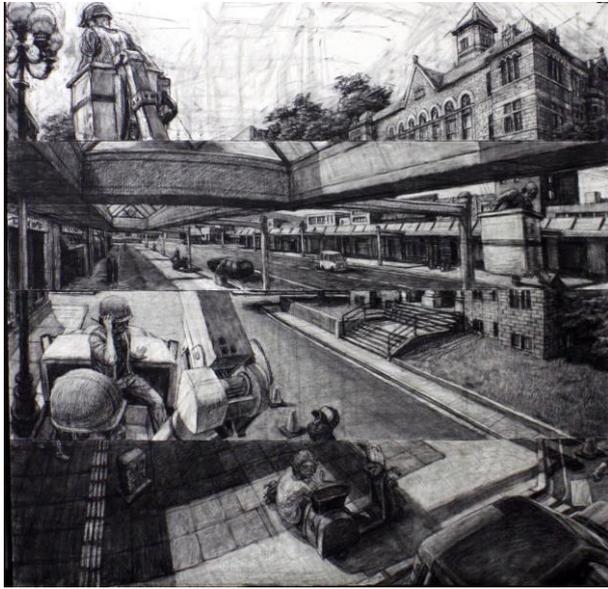
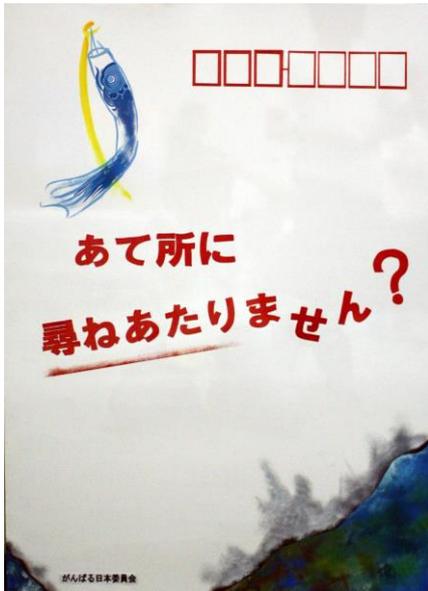


61th

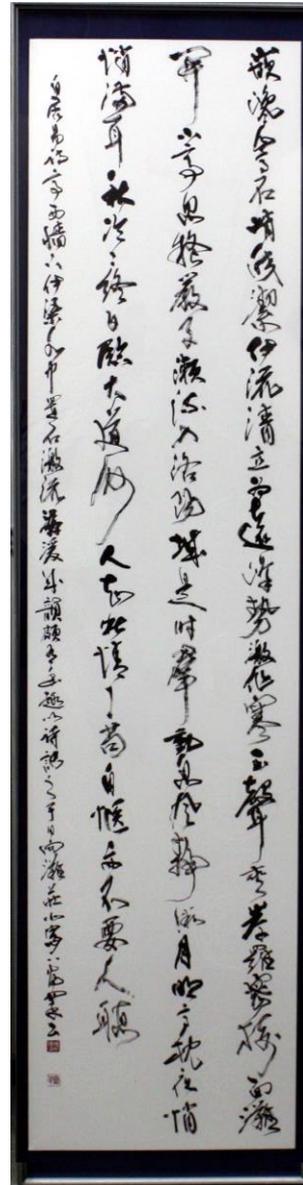
延岡市美術展覧会 入賞・入選目録



洋画部門 特選
「Above Charleston and Nobeoka」



グラフィック
デザイン部門
特選
「探してください」



書道部門 特選
「亭西牆下」

会期:平成23年7月2日(土)~7月15日(金) 【休館日:7月5日(火) 7月12日(火)】
会場:延岡総合文化センター展示室1・2 【開館時間:AM 9時 ~ PM 5時】
主催:第61回延岡市美術展覧会実行委員会・延岡市・延岡市教育委員会・延岡市文化連盟

◇ 後 援 (順不同) ◇

宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市議会・延岡商工会議所・(社)延岡市医師会
延岡農業協同組合・(社)延岡市西臼杵郡薬剤師会・旭化成(株)延岡支社
九州電力(株)延岡営業所・ホテルメリージュ延岡・センコー(株)延岡支店
清本鐵工(株)・宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社

洋 画

特 選	延岡市長賞	Christopher Troutman	Above Charleston and Nobeoka	木炭
準特選	宮崎県知事賞	高橋 絵美里	無念の日々(2010)	水彩
準特選	延岡市教育委員長賞	八木 千穂子	庭園V II 2011. 6	水彩
奨励賞	延岡市議会議長賞	武田 昭三	追憶	油彩
奨励賞	延岡市教育長賞	園田 博一	鏡山夕照	油彩
奨励賞	延岡商工会議所会頭賞	田口 昭	惨,3. 11	アクリル
奨励賞	ホテルメリージュ延岡賞	甲斐 眞	時のいたずらII	油彩
努力賞	努力賞	大貝 優乃香	旋	油彩
無鑑査		後藤 光雄	生きる	アクリル
無鑑査		工藤 晏生	奉謝	アクリル
無鑑査		八木 隆幸	まるの詩・10～碑5	油彩



入 選



赤澤 隆	船影	油彩	黒木 光子	南蛮辛	水彩
磯貝 増夫	高鍋大師像	油彩	小池 澄	えびの高原 秋の訪れ	水彩
岩崎 奈美子	春の訪れ	油彩	古小路 禮子	収穫のよろこび(2)	水彩
岩永 莉里	交差	油彩	小屋松 藍	緑花野菜	油彩
上山 晴久	小野神社の大楠 (2011. 春)	油彩	佐藤 香代子	風となみ(2)	アクリル
江藤 繁	漁港のアート	水彩	首藤 孝子	踊(2011)	油彩
大山 久雄	願いをこめて	油彩	水津 保	画家(神の像)	油彩
甲斐 トシ子	情熱の花 カンナ	水彩	高橋 桂子	夕照の高原にて	油彩
甲斐 美保	夕陽の里	油彩	田中 節子	祈 I	油彩
梶本 アケミ	どうなる日本	油彩	野村 豊	晩秋	油彩
木村 マシ子	さくら咲く頃Ⅱ	油彩	本田 菜摘	沈黙	油彩
工藤 俊英	祈り・さけび	アクリル	松田 武雄	ボロイヤマ 双石山	アクリル
久保 ケイ子	弥陀ヶ原(立山)	油彩	矢野 隆男	古い漁港	水彩
栗本 邦茂	ナイチンゲールの 灯を目指して載帽	水彩	陸丸 敦子	水に祈る	油彩
黒木 利広	門川民話	油彩	渡邊 大夢	待機	油彩
黒木 日良志	樹魂('11-4)	アクリル			

日本画・水墨画・ちぎり絵等

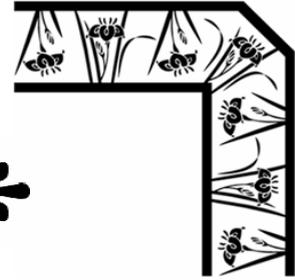
特選	延岡市長賞	古川 友江	心の片隅	切絵
準特選	延岡市文化連盟会長賞	山内 登紀子	初夏	日本画
奨励賞	夕刊デイリー新聞社賞	工藤 俊英	光を描く夕暮れの溪流	切絵
努力賞		谷本 広司	湧き水	水墨画
無鑑査		小野 きよ子 (清華)	色生えて	ちぎり絵

入 選

岩切 恵美子	夏の日	ちぎり絵	高橋 綾子 (彩苑)	オカラノオ	日本画
海野 秋俊 (南源)	耳川河口美々津港	水墨画	鶴田 サツエ	秋桜	ちぎり絵
大槻 スエ子	うこんの花	ちぎり絵	富山 千世	早春	ちぎり絵
河野 峰子	島育ち	ちぎり絵	西川 志づ	洋梨とカラー	日本画
工藤 晏生	イングリッシュローズMASAKO	日本画	濱口 ヨシエ	白椿	ちぎり絵
佐多 光夫 (光城)	白岩緑樹	水墨画	原 辰義	のべおかの街	剪画
佐藤 幸子	秋元神楽	ちぎり絵	矢野 梅子	枇杷	ちぎり絵
瀬戸口 リツ子	コスモスの丘	日本画	湯地 イチイ	接戦	ちぎり絵



彫刻・工芸



特選	延岡市長賞	武田 弘子	はやぶさの生涯=大事な子供 (カプセル)を残して親(人工衛星はやぶさ)は燃えつきた	友禪染
準特選	宮崎県教育長賞	田上 多津美	エンジェルス・トランペット	友禪染
奨励賞	延岡市議会議長賞	横田 京子	茜色のコンサート	パッチワーク
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	興梠 ふみ	手毬花	陶芸
努力賞		原 澄恵	アヲ丸	陶芸
無鑑査		中村 有子	幾何学紋六角柱器「明日美」	陶芸
無鑑査		芝 行則	夢空間	彫刻

入選

石内 見空	ガウディー風ステンドランプ バラ窓	陶芸	黒木 千里	STOP環境汚染 (地球が泣いている)	陶芸
上村 洋子	新燃岳	陶芸	関 武司	満天の星	陶芸
大内 芳子	蝶の舞	レース編み	高見 昭夫	ちょっと小粋なキャンドルライト	竹細工
甲斐 紀代子	すべての人々を救う菩薩 復興にむけて	刺繍	田口 京子	つむぎ帯	友禪染
河上 裕馬	親子の愛	彫刻	成岡 コマ子	六個のひょうたん	友禪染
菊池 トヨ子	インディオの衣裳を着た自我像	刺繍	藤枝 晴美	遊泳	パッチワーク
工藤 武人	跳び大皿	陶芸	松永 茉梨愛	ペンギン遊泳中	ろうけつ
工藤 ほなみ	夢想花(タペストリー)	友禪染	三宅 久美子	情熱の花	友禪染
黒木 英勝	金箔曜変天目茶碗 (金雲)	陶芸	持永 美月	カギ動	ろうけつ

グラフィックデザイン

特選 延岡市長賞 木田 証子 探してください

努力賞 松永 昂士 助け愛

入選

伊東 珠貴 きぼうの光

大塚 奈々 パワフルお母さん

香河 怜菜 ^{イチ}生命

瀧本 泰士 Stylish

立石 利宏 混迷日本の明日を考える

永岡 菜那美 心内戦争



書 道



特選	延岡市長賞	城戸雅子	(富翠)	亭西牆下
準特選	延岡市教育委員長賞	岡崎亜希子	(一華)	客暁
準特選	延岡市文化連盟会長賞	小田千穂	(紅扇)	ふじがねや
奨励賞	延岡市教育長賞	宮本元子	(香洋)	長干行
奨励賞	延岡市医師会長賞	上杉秀子	(秀香)	贈太僕何石川
奨励賞	延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞	植野幸雄	(竹山)	李白詩
奨励賞	ホテルメリーージュ延岡賞	富高梅生	(玉振)	悠遠長懷 山河四望春
努力賞	努力賞	小野静	(麗華)	月夜臺上聽友人彈琴
招待作家		岩下基	(春來)	吳鎮
招待作家		大塚洋子	(葉風)	答高山人
無鑑査		西村香枝子	(和香)	雨上
無鑑査		植野春雄	(聖鳳)	張說詩
無鑑査		西村寿洋	(玄洋)	偶題 二首

入 選

青柳 有伸	(有玄)	紅林橋	佐藤 ナオミ	(翔華)	聞蟬
荒巻 孝行	(大心)	逍遙思慮閑	椎葉 恭一郎	(大岳)	凝神静思
飯干 朗	(千峰)	春日	篠原 和子	(和葉)	結客少年場行
伊藤 由美子	(春華)	草しげる 他一首	柴田 照子	(空心)	年くれし一 他一首
上野 和子	(和風)	世のうきに	相馬 宗典		鑿壁讀書
植野 寿美	(寿泉)	喜雨	染山 頼子	(芳華)	貧而樂道
植野 洋一	(桂石)	清溪(方朝詩)	田口 智子	(春汀)	わが庭の
上原 幸子	(香玉)	偶成	谷口 隆幸	(鶴城)	吳激詩
牛島 二美子	(文甫)	李白詩	谷脇 かおる	(蕙華)	夏草の
緒方 和子	(華苑)	秋蓮	丹波 のり恵	(瑤翠)	静趣軒
岡村 公子	(瑛翠)	双溪を渡る	年森 恵	(祥雲)	岑參詩
甲斐 かおり	(香風)	邨居	中須 昭子	(昭苑)	王績詩
甲斐 睦子	(柏葉)	紅梅	難波 和恵	(柏舟)	尋魯城北范居士
笠木 正嗣	(碩心)	遲遲江山麗	西田 登美子	(美風)	絶海中津詩
川口 幸治郎	(幸風)	傳梅詩	原田 さゆり	(桑峰)	李太白集「登覽」
城戸 裕行	(鳳翔)	有懷錢塘寄述古	前田 佳代子	(佳泉)	唐詩
小坂 千代子	(千草)	許謙詩	山浦 秀子	(柏秀)	読山海経
佐藤 茂樹	(柏樹)	長安有狹斜行	山本 加代	(涛香)	懷舊

写真

特選	延岡市長賞	西原知里	出店当番
準特選	延岡市教育委員長賞	小川忠之	天空の夜桜
準特選	延岡市教育委員長賞	鈴木久人	ぼくとお姉ちゃんとアイラ君
準特選	延岡市文化連盟会長賞	甲斐靖一	初夏の宵
準特選	延岡市文化連盟会長賞	甲斐直志	帰路
奨励賞	延岡市議会議長賞	中野孝一	星空に咲く一本桜
奨励賞	延岡市教育長賞	高島章碩	清流の灯
奨励賞	旭化成(株) 延岡支社長賞	酒井義満	ドリームライン
奨励賞	延岡市医師会長賞	中村武史	恋するバルセロナ
奨励賞	九州電力(株) 延岡営業所長賞	川端章	時は流れて
奨励賞	宮崎日日新聞社賞	周防政幸	渚のアート
奨励賞	延岡農業協同組合 代表理事組合長賞	松尾香代子	闇への誘い
奨励賞	清本鐵工(株)社長賞	御手洗実	ゴール目前
奨励賞	センコー(株) 延岡支店長賞	金丸久志	蜜をください
努力賞	努力賞	山口守	雪の合掌集落
無鑑査		工藤幸夫	村の娘
無鑑査		高橋ミサ子	^{ハタチ} 二十歳
無鑑査		後藤司郎	風格





入 選

青 木 眞	サンセットポエム	黒 木 男	炎の祭典
赤 木 利 彦	襲来	幸 崎 善 五 郎	ミラーハウス
荒 木 大 介	ハイ! チーズ!!	小 島 守	祈り
安 藤 義 春	竹よいまつり	小 林 敏 秋	歓びのとき
飯 干 幸 一	惜春	佐 藤 卓 志	春風に乗って
池 田 晃 二	夢を追って	佐 藤 傳	編む
石 田 和 彦	神馬激走	雀ヶ野 秀 憲	おいら 花魁
伊 東 英 一	弧	田 崎 淳	美人林
井 上 政 範	ジャンプ	田 爪 徳 藏	団結の強い害虫
植 野 浩 人	おやつタイム	田 辺 文 昭	窓辺の鏡像
歌 津 利 幸	光のファンタジー	谷 久 美 代	デビューしました。「私ポニーよ」
衛 藤 惇 夫	復興への舞い	千 葉 雄 一	山村生活
緒 方 泰 弘	昇月	趙 亜 鳴	水辺の少年
緒 方 正 光	ちょうとんぼ	中 瀬 林	境内の印象
岡 野 勉	師弟ざくら	永 田 能 夫	幸福祈願
甲 斐 勇	滝が注ぐ未明の淵	永 山 淳	地球は今?
甲 斐 隆 昌	穏やかな日	新 名 光 子	深山慕情
甲 斐 民 人	園児検診	葉 上 普 大	ふれあい
甲 斐 弘 明	蓮の花	松 田 和 男	捕食
川 口 幸 治 郎	ハチ 二十歳	三 角 克 彦	異空間
川 越 洋 治	光彩陸離(モロッコ)	宮 川 哲 朗	海中公園
川 崎 伴 平	海開の日	宮 良 信 道	ファームアート
河 野 康 哉	満開の桜の下で	柳 田 知 保 子	裸まいり
菊 池 貢	ぶな霧氷	矢 野 征 生	門出
木 谷 靖	朝寝坊	山 口 敏 夫	少女と黒猫
木 脇 文 三	勝者の横で	山 中 正 宣	白鷺の集い
久 保 九 州 男	争い	横 山 守	砂のアート(林)
黒 木 勲	捕獲	吉 岡 信 一	まつりの主役
黒 木 憲 二	渴水(蘇る記憶)		

審 査 講 評

(審査員の氏名は、敬称を略させていただきました。)

【洋画部門】

広島市立大学芸術学部教授・行動美術協会会員 堀 研

たび重なる天災・人災による大きな打撃にもめげず、61回目を迎えた“延岡市美術展”が盛大に開催されますことは、伝統ある文化的土壌に根付いた延岡市の底力の明かしでもあり、人間力のたまものです。しかも他の市美展には考えられない「全国どこに居ても応募できる…」という寛大な規約は、たいへん斬新でもあり、ほほえましい。

しかし市外からの応募者が、まだ少ない理由として、そのシステムが知れ渡っていないだけでなく、全国区になるだけの展覧会の魅力に欠けるのではないだろうか。他の市美展などによく有りがちな“質よりも量”の発想が先行して、一人でも多くの出品者のための人情論を優先するならば、審査員を招く必要は無く、全ての作品を陳列するアンデパンダン形式を取れば良い。

しかし、一方では本格的に絵の道を志す若者たちが挑戦したい場ではなくなり、気が付いてみるとただ質が低下するまま、気の合う仲間だけのマンネリ展にもなりかねない。

願わくば地域文化の向上を一役荷なうスポンサーをつのり、せめて大賞作品には“買い上げ賞”くらい付けて、新人の登龍門的なコンクール色が強まれば、この延岡市美展の存在価値は高まり、他県からの注目を集めることになるだろう。

私はこの度、3回目の審査員として招待を受け、身に余る光栄に感謝すると同時に、このような独り言をつぶやくのも、この市美展に対して更に私の愛情が深まった証だと実感している。

今年度も例年に変らず多数の力作が出品されたが、その中で優劣を決めざるを得ない立場としては、苦しいことでもありながらも、真剣勝負でもあり、慎重なる審査経過にそって、段々と秀作が絞られてゆく時の感動と緊張感は、その役を引き受けた者の醍醐味です。

今年度の審査結果の感想として、全体的に暗いイメージが多く、世相を反映しているのであろう。特選の「Above Charleston and Nobeoka」は、木炭だけでラフにデッサンした力強いタッチと構成力が意表をつき、現代を感じさせる作品であった。準特選の「無念の日々2010」は口蹄疫がテーマでもあり、暗い画面の完成度は高く密度が濃い作品であった。

それに対象的な「庭園Ⅶ」は感覚的で明るく楽しい世界が表現されてこち良い。その他心に残る多くの出品作品に後髪を引かれながらも、前述したように、量よりも質を高める展示にしたい一心から、入選率は厳しく狭き門になった。

これも61回展を迎えて、これから更なる飛躍をするための新しい一歩を踏み出したことを理解して、各々の画業の中で更に精進していただきたい。そして、全国どこからでも、延岡市美展が目標にされるだけの質の高い新しい伝統が築かれますことを祈念します。

【日本画・水墨画・ちぎり絵等部門】

大分県立芸術文化短期大学教授 河上 央

今回で第61回目となる延岡市美術展、第50回の審査から数えて私自身7回目の審査となりました。回を重ねるごとに審査の難しさを感じます。日本画・水墨画の審査にちぎり絵が加わったこと、出品作品のレベルが上がり力作がそろってきていること、すべてに常連となっていていつも力作を出品してくれる

方々の力量の平均化、入選点数が会場の都合で限られていること、等々の理由から惜しくも選にもれた作品の中にも、入選に値する作品があったことをお伝え致します。

今回、日本画・水墨画・ちぎり絵、合わせて34点の応募がありましたが、全作品から受けた印象は表現方法の違いはあれ、真摯に物を見て表現している作品や出品された方の誠実な姿勢が感じとれる作品が多いことです。また、これからより充実した制作を期待できるものも少なからず見ることができ、楽しく審査にあたることができました。今回の審査でも、技術的に優れている作品は基より見る側に素直に働きかけてくる作品、少々未熟な点はあるものの、描く楽しさにあふれた作品を基準に審査しました。

では、今回の審査で入賞した作品について述べたいと思います。

特選、古川友江さんの「心の片隅」重ねられた和紙に、作者の深い情感を感じ力作だと思います。

準特選、山内登紀子さん「初夏」作者の素直な心が画面から受けとれます。力強い線と明晰な造形意識を感じます。

奨励賞、工藤俊英さん「光を描く夕暮れの溪流」繊細に溪流の流れと光を表現され、実に丹念に仕事をされた巧みな作品です。

努力賞、谷本広司さん「湧き水」素朴な表現である。単調のなかにも作者の力強さを感じます。

最後になりましたが、今後も様々な表現方法で互いに切磋琢磨することにより、延岡市美術展が益々発展することを期待したいと思います。

【彫刻・工芸部門】

日展評議員・宮崎大学名誉教授 平原 孝明

十年ぶりの審査の機会をいただきました。

以前にも増して延岡の地方文化が盛んになっていることを実感し喜ばしく思いました。

ウェブスター辞典によると、芸術とは「技能や独創的想像力をとりわけ美的感覚に訴える物の制作に意識的に用いること」とあり、技能と独創的想像力の両方が必要とされます。

応募作品45点の中から近年の状況と展示等を考慮して慎重に選考にあたり23点にしぼりました。

特選の武田弘子さんの作品は宇宙に思いをはせる情熱それを友禅染で表現したという発想に敬服いたしました。

準特選の田上多津美さんの「エンジェルス・トランペット」の作品は非常に魅力的な構成力のしっかりした作品でした。次回が楽しみです。

奨励賞の横田京子さんの「茜色のコンサート」パッチワークの作品で明るく豪華な感じがし、構成と色調で選びました。

奨励賞の興梠ふみさんの「手毬花」タイルの作品でアジサイの花を優しく表現し好感がもたれた。

努力賞の原澄恵さん「丸」の荒削りな中にどっしりとしたフォルムが感じられた。

ひきつづき基礎的な勉強をし、自然をより深く見つめることにより造形する喜びと制作活動を展開することを願います。

【グラフィックデザイン部門】

九州情報大学客員教授 宮木 英幸

3月11日に起きた地震・津波による東日本大震災は想像を絶するほどの威力で人間に襲いかかり岩手、

宮城、福島沿岸部は津波に飲み込まれ、かつて無いほどの大きな被害をもたらした。それに加えて原発事故が重なり、まさにこの世の地獄を見るような惨状を呈している。かつて人間は自然に対して畏敬の念を抱き、自然に学びながら自然と折り合いをつけて生きてきた。科学技術の発達で現代の人間は、昔の人の生き方に学ぶことを忘れていたのかもしれない。

震災以来「想定外」という言葉が流行語並に頻繁に使われるようになった。その殆どが責任逃れの口実のように虚ろに響くのは私一人だろうか。

宮崎県でも未だ終息を見ない新燃岳の噴火、口蹄疫や鳥インフルエンザの発生など次々に見舞われた近年の災難が記憶に新しい。

前置きが長くなったが、出品点数が昨年の73点から今年は11点と激減しているのは学生の出品者数に左右されたことが大きな要因らしい。

グラフィックデザインは「メッセージ（自分の思い等）を視覚的に表現する」ことであるとすれば、自然の災害などの環境問題、エネルギーの問題などは多くの方が自分の意思表示をするための格好のテーマであり、本年度は応募が増えるものと期待をしていたが誠に惜しい。

実際に作品審査の作業に入ると困ったことがあった、全作品の数から割り出された入選率で、グラフィックデザインの入選は7点、その中で入賞が2点と決められていた。しかしそれぞれの作品をよく見ていると11点すべての作品を陳列したくなる。いろいろ悩んだ末に8点の入選を認めていただいた。従って選外の作品が決して悪いわけではなく、私の感じる「見た目のカッコ良さ」だけかもしれない。選外を恐れずこれからも是非制作を続けて欲しいと願う。

さて特選は木田柁子さんの「探してください」。東日本大震災を真正面から受け止めたテーマ。膨大な数の死者や行方不明者への切ない想いがポスターを観る者の「こころ」に響いてくる。ポスター全体を郵便はがきに見立てて下方にはテレビで幾度と無く繰り返された津波の映像を思わせる形が見られる。そして郵便の宛先は家も人もすべて流されてしまい、呆然とするハガキの差出人が脳裏をかすめる。サンプルで直截な表現が素晴らしい。

次に、努力賞は松永昂士さんの「助け愛」、これも大震災へのメッセージとも受け取られる、日章旗の日の丸が母子のイラストレーションになっていてほのぼのとした気分を醸し出す。非常にわかりやすいストレートな表現がグラフィックデザインの本質に迫っていて心地よい。

ほか入選作品についての感想は割愛するが、それぞれに個性があり心がこもっていて、見る人を飽きさせない。

【書道部門】

日展会員・鹿児島大学教授

松清 秀仙

延岡市美展が六一回という長い歴史を重ねてきたことに驚くとともに、関係の皆様への敬意を表します。一昨年に続き、二回めの審査をさせていただき責任の重さを感じました。応募点数六八点は昨年より数点の減のようですが、レベルは高く、新しい傾向の作品が出品されていることに将来性を見ることでした。

文字を素材とする書は、ややもすると上手、下手で見られがちですが、「いい字は？」という観点で慎重に審査させていただきました。漢字作品は行草書の連綿作が主で、それぞれに個性の主張をみせていました。なかでも篆書、隸書の作品が出ていることは今後の活性化につながると思います。また、篆刻の作品が多いのに驚きました。方寸の世界と呼ばれる地味な領域ですが、古代文字に対する深い知識と

洞察が要求されるものです。

特選に輝かれた城戸雅子（富翠）さんの作品は、凜とした線が行間に響き、小さくしたためた落款が全体を引き締めた佳作となりました。準特選の岡崎亜希子（一華）さんの作品は、何のてらいもなく自然な用筆で書かれ、温か味あふれる人間性を髣髴させる作でした。同じく準特選の小田千穂（紅扇）さんの作品は、最後を盛りあげた構成の妙と広くとった行間が美しい仮名作品でした。

全体としては水準が高く、落選させるにしのびない作が多くあったことを付け加えておきます。

【写真部門】

（社）日本写真家協会常務理事・（社）日本写真家協会理事 齋藤 康一

延岡市美術展覧会写真部門の審査を初めて務める事が出来、とても光栄に思っています。応募点数が前回より多少減少とお聞きしましたが、内容的に見ますと市展レベルとしては最高の出来とと思いました。延岡についての知識に乏しい私ですが、車中から見ます風景は素晴らしいものが有りますのに、何故か自然を被写体とした作品が少なかった様に思いました。

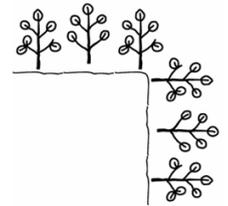
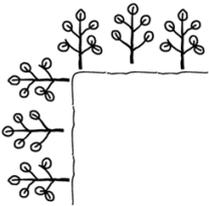
延岡市長賞となった西原知里さんの「出店当番」は、市場で赤ちゃんを背負いながら働くご婦人の姿を写したのですが、右側の商品をやや量し気味に入れながら左側にすっかり疲れて眠り込んでしまった赤ちゃんを気遣いながらの働き振り、画面の拡げ方、フレーミング、特にさりげない動きの瞬間を撮られた素晴らしさに感心致しました。

教育委員長賞の小川忠之さんの「天空の夜桜」は夕闇の中にライトアップされた桜を夢幻とも言った感じで美しく描き出しています。上空のトーンと桜の色がピタリと合致している様に思いました。

同じく教育委員長賞となった鈴木久人さんの「ぼくとお姉ちゃんとアイラ君」は、見ているだけで自然に笑顔になってしまう感じです。可愛らしさが画面いっぱいに広がっている様に思いました。

文化連盟会長賞の甲斐靖一さんの「初夏の宵」は蛍の花をクローズアップしながら片方に蛍そのものと光、片方には花の内側からの淡い光を合せ美しい画面を作り上げていると思いました。

同じく文化連盟会長賞の甲斐直志さんの「帰路」は実に趣のある建物をバックにご婦人の帰る姿を描いた作品ですが、建物に対してのご婦人のポジションがピタリと決まった感じですし、また、とてもフォトジェニックなご婦人を選んだと思いました。とても完成度の高い作品と思いました。



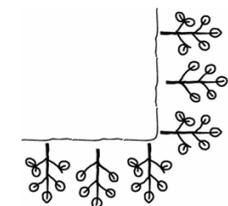
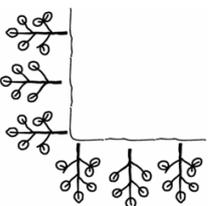
◆第61回『延岡市美術展覧会』作品出品状況

※（ ）内は昨年度

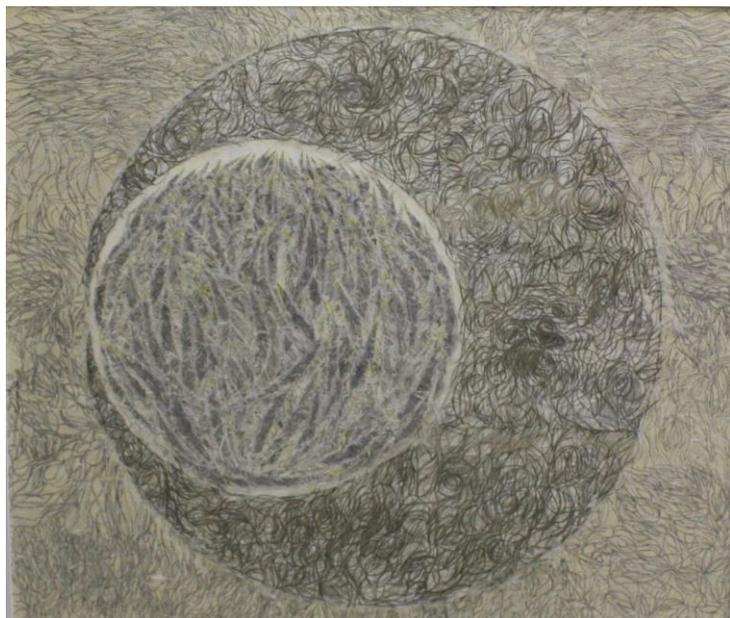
部 門	出品者数		出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)	
	A	うち2点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C
洋 画	61 人 (67)	18 人 (16)	73 点 (78)	6 点 (5)	79 点 (83)	3 人 (2)	64 人 (69)	82 点 (85)
日本画・水墨画 ちぎり絵等	31 人 (32)	3 人 (3)	34 点 (35)	0 点 (0)	34 点 (35)	1 人 (1)	32 人 (33)	35 点 (36)
彫刻・工芸	36 人 (29)	9 人 (11)	39 点 (38)	6 点 (2)	45 点 (40)	2 人 (1)	38 人 (30)	47 点 (41)
グラフィックデザ イン	11 人 (73)	0 人 (0)	3 点 (3)	8 点 (70)	11 点 (73)	0 人 (0)	11 人 (73)	11 点 (73)
書 道	68 人 (71)	0 人 (1)	68 点 (72)	0 点 (0)	68 点 (72)	5 人 (7)	73 人 (78)	73 点 (79)
写 真	110 人 (127)	46 人 (58)	157 点 (183)	1 点 (2)	158 点 (185)	3 人 (3)	113 人 (130)	161 点 (188)
合 計	317 人 (399)	76 人 (89)	374 点 (409)	21 点 (79)	395 点 (488)	14 人 (14)	331 人 (413)	409 点 (502)

※<招待作家>…全国規模の公募展で、顕著な結果を残された方の作品

※<無鑑査>…「特選 延岡市長賞」を通算3回受賞された方の作品



61th 延岡市美術展覧会



日本画・水墨画・ちぎり絵等部門 特選
「心の片隅」



彫刻・工芸部門 特選
「はやぶさの生涯=大事な子供(カプセル)を残して親(人工衛星はやぶさ)は燃えつきた」



写真部門 特選
「出店当番」